

近畿地整・建設コンサルタンツ協会近畿支部 による第6回合同現地研修会を開催

H29.10.20

～河川部 河川計画課～

平成29年10月20日(金) 近畿地方整備局と建設コンサルタンツ協会の若手技術者が合同で現地を視察し、具体事例を踏まえた疑問点、課題などに関する意見交換を通じて、現場をみる目、考察力の研鑽等、相互の技術力の向上を目的として、合同現地研修会を実施しました。

今回で6回目をむかえ、近畿地方整備局9名、建設コンサルタンツ協会12名が参加しました。

■現地視察

- ・現地視察は、淀川左岸堤防の西島地区で実施されている地盤改良工事(擁壁構造物下を新技術のCI-CMC工法による地盤改良)の施工状況について視察しました。
- ・現場では、現場担当者が施工上の留意点や、周辺環境に配慮した工事について説明しました。

現地視察の様子



工事状況(大型機械直近で音量確認)



担当者から説明を聴く参加者

工事状況(視察箇所)



西島地区 地盤改良工事 現場

■意見交換会

・軟弱地盤の考え方及び本現場の設計・工事の概要説明を受け、その後現地に移動し、大型機械による地盤改良工事の現場を視察しました。現地視察後、『設計と施工での相違点』(施工段階で手戻りが生じないために設計段階で配慮すること)をテーマに、4班に分かれ、行政・コンサルタントというそれぞれの視点から意見交換を行いました。

意見交換会での主な意見

- 合同現地踏査の機会を1回ではなく複数回行うことが有効ではないか。
- 業務着手のはやい段階で施工計画で実施すべき内容を明らかにし、発注者と受注者が問題を共有することが有効ではないか。
- 地中埋設物調査は、現場ではなく設計段階で行うことが有効ではないか。
- 設計段階で、古地図や航空写真による地歴、工事履歴等の情報収集を念入りに行い、より現場の状況を把握することが有効ではないか。
- 設計工期は、調査期間を考慮した工期設定が有効ではないか。

意見交換会の様子



班ごとの発表状況



参加者の感想

- 工事中の現場を見る機会は少ないので、今回の研修会により理解が深まって勉強になった。
- 若手技術者間で、行政、コンサルタントそれぞれの視点・経験により活発な意見交換ができた。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
河川部 河川計画課 調査第二係
〒540-8586 大阪市中央区大手前1丁目5-44
TEL 06-6945-6355

